

(9) 歩道切下げ舗装構造基準

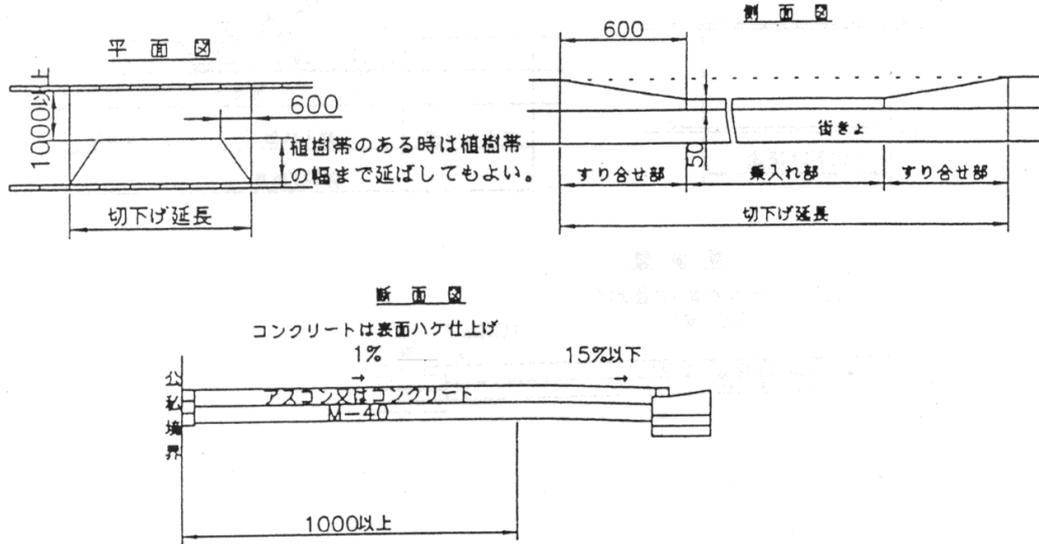
(単位mm)

項目 種別	コンクリート舗装			アスファルト舗装				平板舗装					インターロッキング舗装				
	コンクリート 普通 21-8-20N (212B)	粒度調整 砕石 M-40	舗装厚	細粒度アスコン	粗粒度・再生粗粒度アスコン	粒度調整 砕石 M-40	舗装厚	コンクリート 平板	モルタル (1:3)	コンクリート 普通 21-8-20N (212B)	粒度調整 砕石 M-40	舗装厚	普通 インターロッキング	敷砂	粒度調整 砕石 M-40	再生 クラッシャー RC-40	舗装厚
A型	150	150	300	50	—	300	350	60	10	100	150	320	80	20	100	100	300
B型	150	150	300	50	—	300	350	60	10	100	150	320	80	20	100	100	300
C型	150	150	300	50	—	300	350	60	10	100	150	320	80	20	100	100	300
D型	200	200	400	50	100	350	500	60	10	130	200	400	80	20	100	150	350
E型	別途検討																

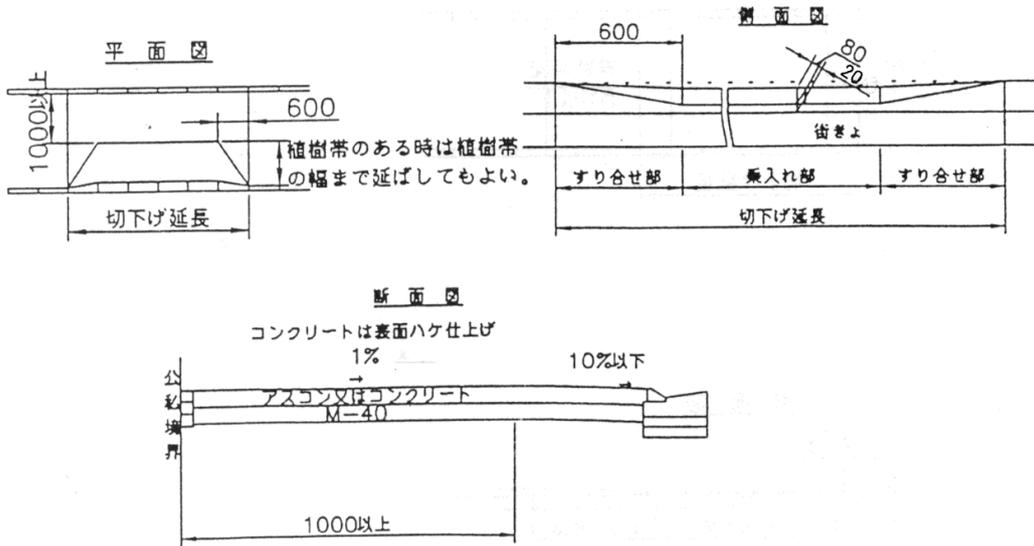
	切下延長 L (mm)	収容施設の種別
A型	3030	軽自動車を収容する施設
B型	4240	小型自動車(8の一部及び4.5.6ナンバー)を収容する施設
C型	5450	小型自動車(8の一部及び4.5.6ナンバー)を収容する施設で、全面道路の幅員が狭い場合
D型	7270	大型自動車(8の一部及び1.2.3ナンバー)を収容する施設

(10) 歩道切下げ標準図

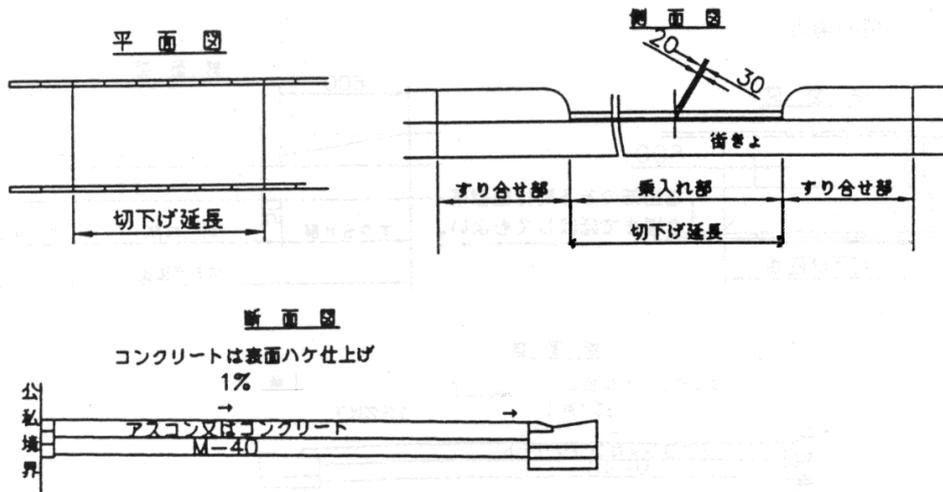
① 155型の場合



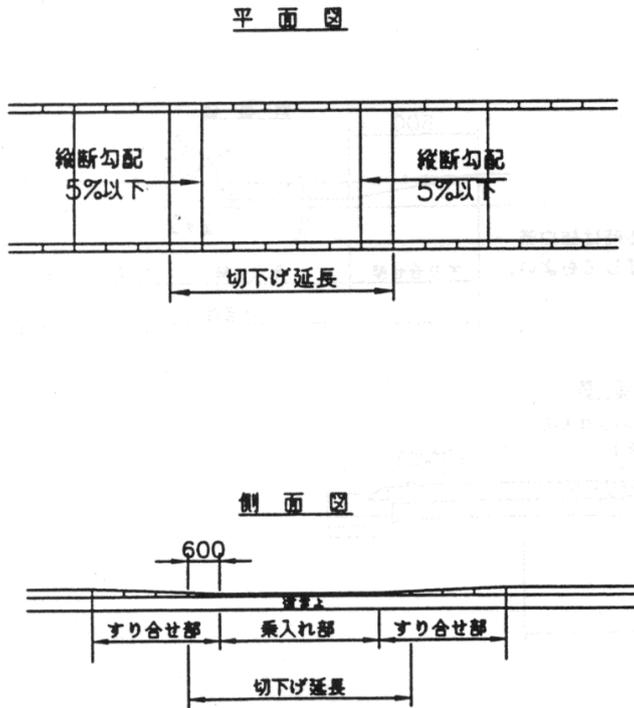
② 155-1型の場合



③ 155SF型の場合



④ 全面切下げの場合



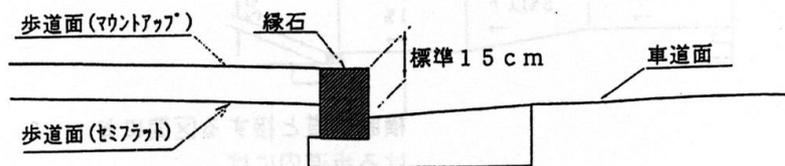
歩道の一般的構造

- (1) 歩道には原則として透水性舗装とする。
- (2) 歩車道境界縁石の車道面からの高さは **15cm** を標準とする。ただし、当該歩道を設置する一定区間において、車両乗入れ施設を設けない場合又は交通安全対策上必要な場合には **20cm** まで、橋又はトンネルの区間においては、当該構造物を保全するために **25cm** まで高くすることができる。

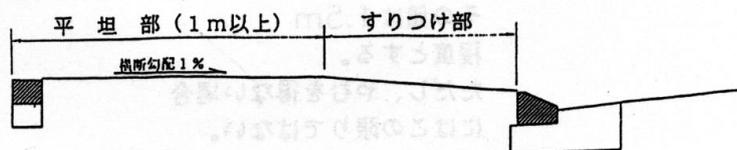
なお、さく、植樹帯又は並木が連続している等、歩行者及び自転車の安全な通行が確保されている場合において、かつ雨水の適切な誘導等が確保できる場合には、必要に応じて歩車道境界縁石の高さを **5cm** まで低くすることができる。
- (3) 歩道面の高さは、当該地域の地形、気象、沿道の状況及び交通安全施設の設置状況等を考慮し、雨水の適切な誘導を勘案して決定する。
- (4) 歩道面に設ける段差すりつけのための勾配は、地形の状況その他の特別な理由によりやむを得ない場合を除き、車いす等の安全な通行を考慮して以下を標準とする。
 - ①縦断勾配：**5%**以下（ただし、地形の状況その他の特別な理由によりやむを得ない場合には**8%**以下とすることができる）
 - ②横断勾配：**1%**（ただし、透水性舗装としない場合又は地形の状況その他の特別な理由によりやむを得ない場合には**2%**を標準とすることができる）
 - ③合成勾配（縦断勾配と横断勾配の合成された勾配）を設けない。
- (5) 歩道面には、車いす等の安全な通行を考慮して、原則として **1m** 以上の平坦部（横断勾配 **1%** を標準とする部分）を連続して設けるものとする。また、当該平坦部分には、道路標識その他の路上施設等は、原則として設けない。

なお、歩道の幅員が十分確保される場合には、車いすの円滑なすれ違いを考慮して、当該平坦部分を **2m** 以上確保する。
- (6) 歩道面に設ける段差すりつけのための縦断勾配設置個所の間隔が短い場合、又は将来の沿道状況により短くなると考えられる場合には、排水施設の設置、交通安全対策、民地側とのすりつけ等を勘案し、一定区間において歩道面を切り下げる等、車いす等の通行を考慮した必要な措置を講ずるよう努める。

(1) 縁石の高さ（一般部）



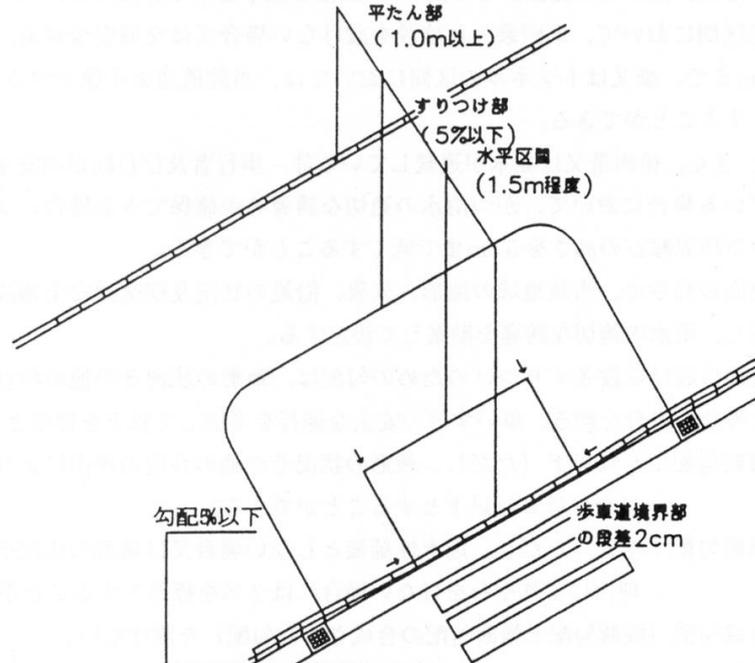
(2) 平坦部の確保



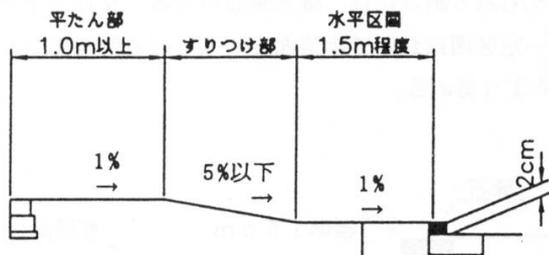
横断歩道部及び交差点部の構造

〔横断歩道部の構造例〕

①歩道幅員が広い場合（水平部を設ける場合）

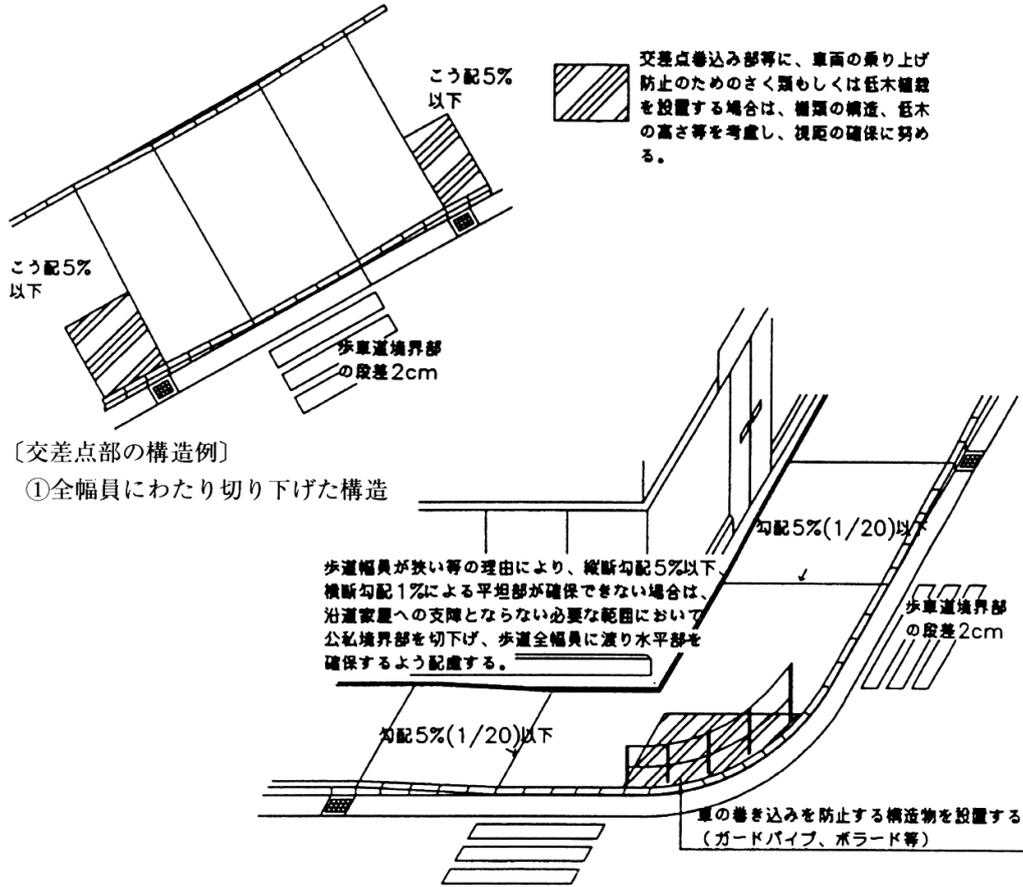


横断歩道部及び交差点部における段差すりつけのための横断勾配は車いす等の安全な通行を考慮して5%以下とする。ただし、沿道状況等によりやむを得ない場合には8%以下とする。

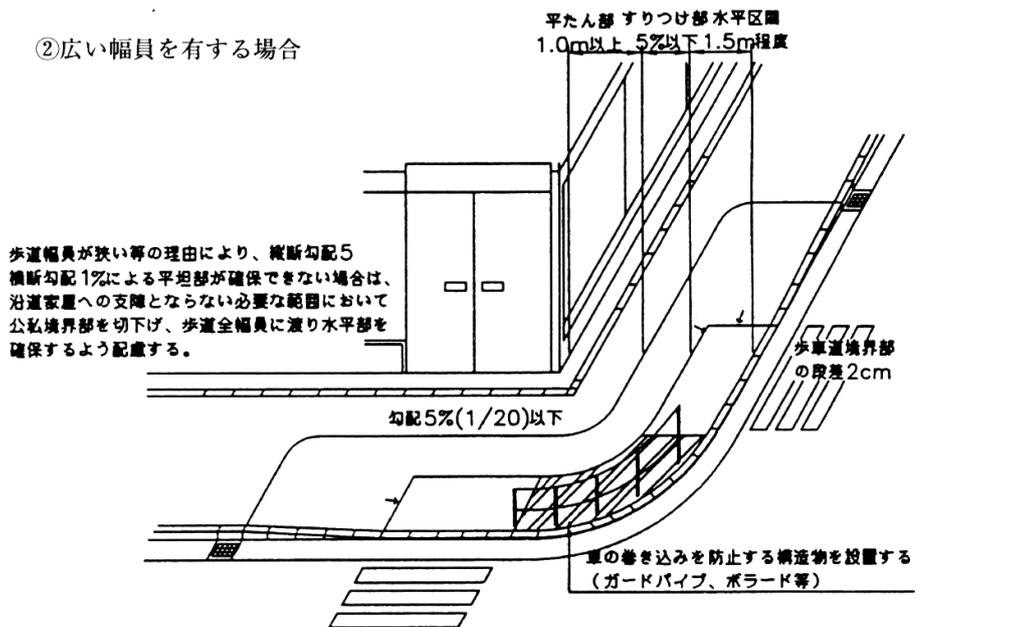


横断歩道と接する区間における歩道内には水平部を設けることとし、その値は1.5m程度とする。ただし、やむを得ない場合にはこの限りではない。

②歩道幅員が狭い場合（歩道全幅員にわたり切り下げる場合）



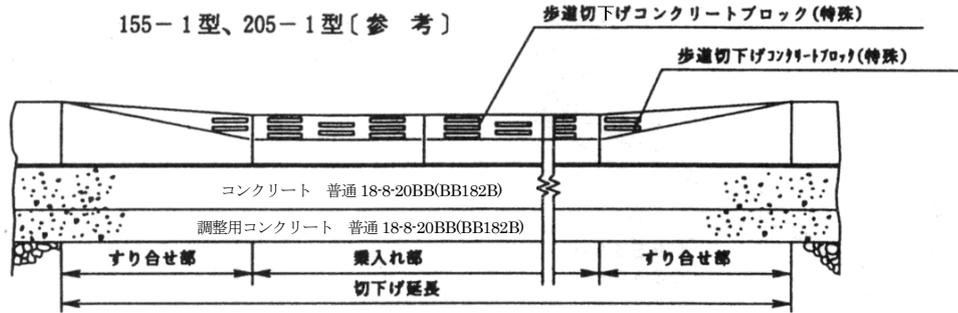
②広い幅員を有する場合



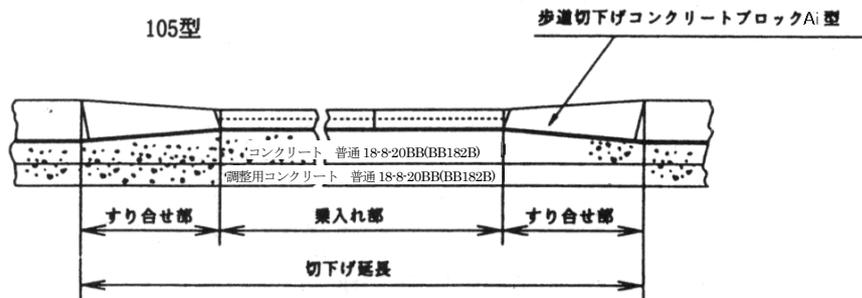
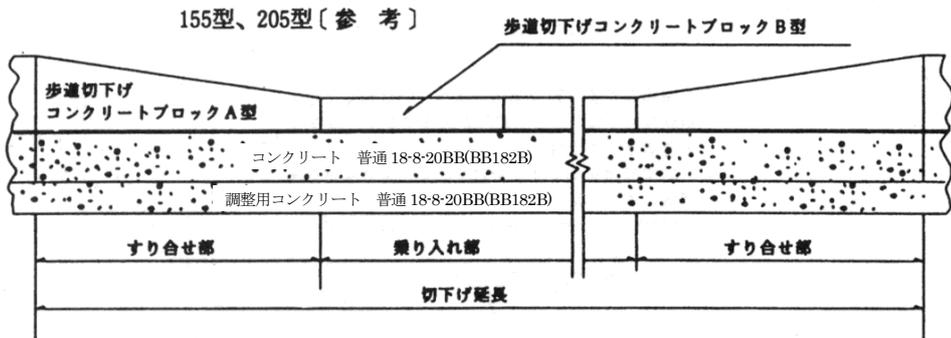
(11) 歩道切下げ構造図

ア 正面構造図

特殊街きょブロック使用の場合

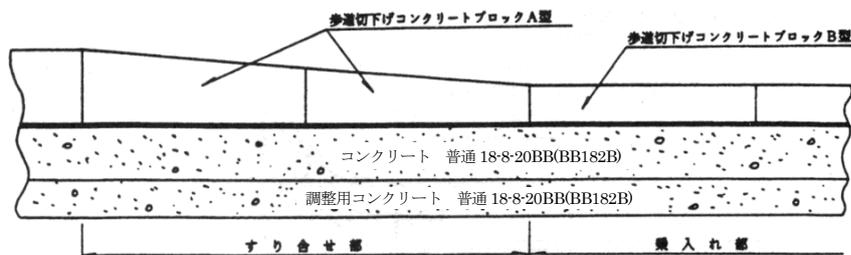


すりつけ部を除いた平坦部が2.0m以上確保できる場合



全幅員切下げの場合

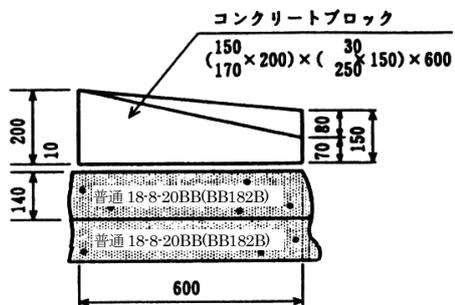
155型、205型[参考]



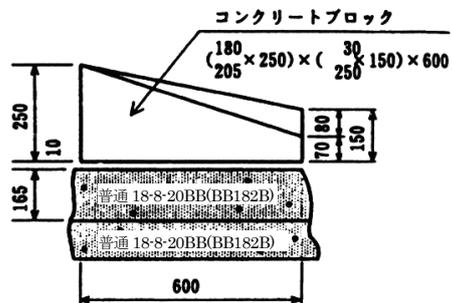
※205型については、歩行者の通行動線方向に8%以下の勾配となるよう舗装ですりつける。

イ すり合わせ構造図

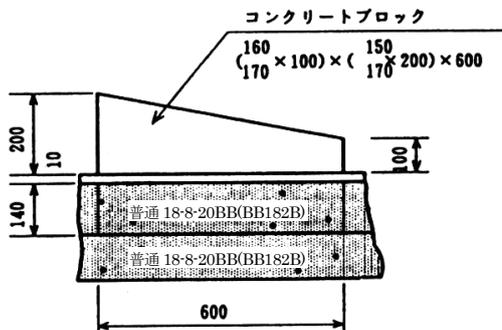
155-1型



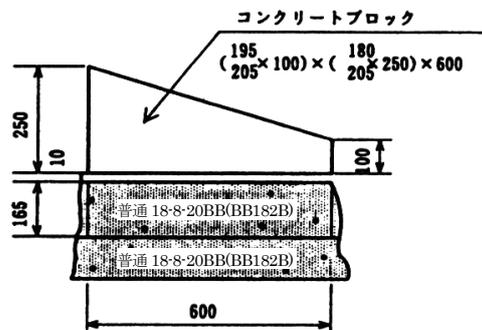
205-1型〔参考〕



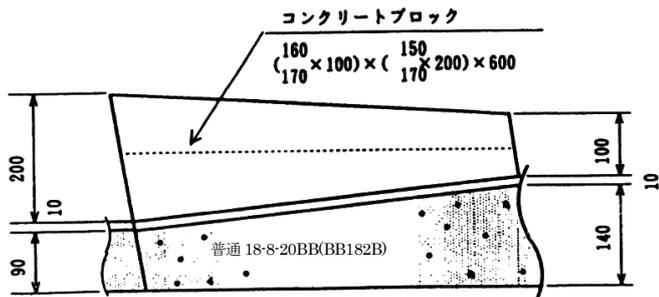
155型



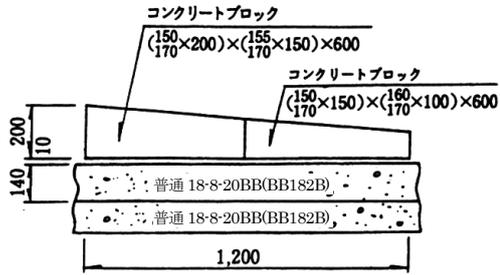
205型〔参考〕



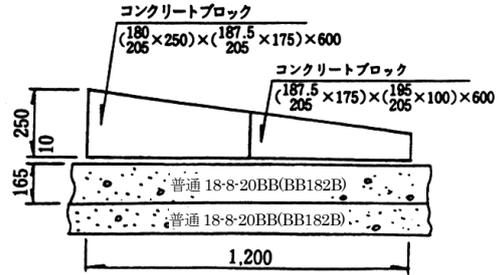
105型



155型 (2本すりつけ)

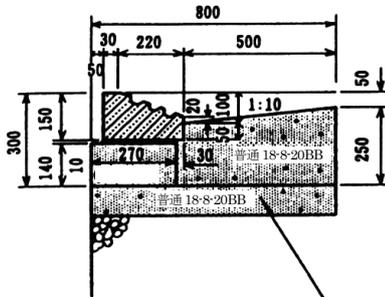


205型 (2本すりつけ) [参考]

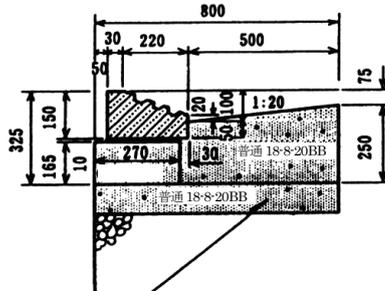


ウ 乗入れ部構造図

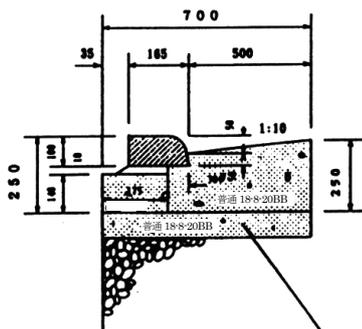
155-1型



205-1型 [参考]



105型 155型



205型 [参考]

